

日本生命 PJ・社会的受容性分析 第 2 回 TF メモ

1. 第 1 回 TF の成果と課題

2017 年 4 月 5 日に開催した第 1 回 TF は、19 名が出席し、以下の 7 報告を踏まえ、社会イノベーション、社会的受容性や協働ガバナンスなどをめぐって議論した。

報告 1：松岡「日本生命 PJ・社会的受容性 TF（第 1 回）メモ」

報告 2：松本「今後の日生 PJ・TF の位置付けと方向性」

報告 3：岩田「専門知と地域知との知の統合による社会環境イノベーションの創出」

報告 4：升本「Ecological Modernization からみた社会イノベーションのモデルについて」

報告 5：鈴木「Transition Management や SNM について①」

報告 6：李「Transition Management や SNM について②」

報告 7：島田「社会関係資本や開発経済学からのサーベイ」

主な議論は以下のようなものであった。

- ・モデルが複雑すぎる。コア・モデルは社会的受容性（or 社会的受容性と協働ガバナンス）だけのシンプルなものにして、飯田、掛川、豊岡のケースの特質・要素についてはコア・モデルに付加するようにした方が良い。

- ・丸山らの社会的受容性論は、すでに存在する技術イノベーションを地域がどのように受容するのかという議論（外生型イノベーション）だが、日生 PJ では社会的受容性と協働ガバナンスをセットして考え、「場」（協働ガバナンス）の中で新たな知識やアイデアが作られ、社会イノベーションになっていくプロセスを明らかにする（内生型イノベーション）。

- ・地域的受容性には、技術・制度・市場的受容性が含まれる。技術・制度・市場はマクロでも作用し、ミクロ（地域）でも作用する。

- ・シンプルなモデルからケースの実証的分析を行い、モデルをエンリッチメントするのが良い。

- ・社会イノベーションの形成にとって、マルチアクターによる協働ガバナンスは必須なのか。

- ・社会イノベーションの厳密な定義が必要だ。社会イノベーションと技術イノベーションの関係、社会イノベーションと専門知、地域知、場と情報との関係などの仮説が提示されると分かりやすい。

以上の議論を踏まえ、第 2 回 TF では具体的な地域のケースの分析において、社会的受容性と協働ガバナンスがどのように作用し、社会イノベーションがどのように形成・普及したのかを検証する。その上で、社会的受容性と協働ガバナンスによる社会的イノベーションの形成・普及モデルをどのように発展させ、あるいは修正するのかについて議論したい。

2. 日生 PJ のリサーチクエストと「社会的受容性と協働ガバナンス」のモデル化

地域の持続性課題 → マルチアクター → 社会的受容性と協働ガバナンス → 社会イノベーション

社会的受容性の4要素（①技術的影響評価である技術的受容性、②社会政治的適応性である制度的受容性、③経済性をみる市場的受容性、④地域の適応性をみる地域的受容性）がどのような関係性やメカニズムで作用し、飯田市、掛川市、豊岡市という3市における都市環境イノベーションが形成され、普及しているのか、その促進要因や阻害要因は何か、様々なレベルにおける様々なアクターがどのようにイノベーション・プロセスに関わったのかを分析する。

社会的受容性の4要素と協働ガバナンスを一つのモデルとすることで、技術的受容性と技術ガバナンス、制度的受容性と制度ガバナンス、市場的受容性と市場ガバナンス、地域的受容性と地域ガバナンスという4つの分析枠フレームの設定が可能となる。

A. 持続性

- ・環境的持続性
- ・社会的持続性
- ・経済的持続性
- ・(持続性とレジリエンス)

B. 持続可能な社会形成への3社会アプローチ

- ・低炭素社会
- ・資源循環型社会
- ・自然共生社会

C. 社会的受容性

- ・技術的受容性
- ・制度的受容性
- ・市場的受容性
- ・地域的受容性

D. 協働ガバナンス

- ・技術ガバナンス
- ・制度ガバナンス
- ・市場ガバナンス
- ・地域ガバナンス

E. 社会イノベーション

- ・技術イノベーション
- ・制度イノベーション
- ・市場イノベーション
- ・地域イノベーション

3. 書籍の編成について

序章:持続可能な地方都市を創る:日本モデルと社会イノベーション（松岡俊二）

第Ⅰ部 ケース研究:3社会アプローチは地方都市でいかに試みられているか

（1）低炭素社会アプローチ:長野県飯田市のケース

第1章:低炭素型産業成長モデルの模索:地域企業と自治体のコラボレーション（渡邊敏康）

- 第2章：脱炭素化をめざす市民共同発電事業：未来への可能性（升本 潔）
- 第3章：地域における再生可能エネルギー利用：ドイツヴィルドポルツリートとの比較
（平沼 光）
- 第4章：地域企業のための環境マネジメントシステム：南信州いいむす21の成果と課題
（中村 洋）
- (2) 資源循環型社会アプローチ——静岡県掛川市のケース
- 第5章：制度選択と住民の合意形成：ごみ減量日本一への途（松本礼史）
- 第6章：行政主導型地域協働アプローチ：行政と住民との協働（李 洸昊・松本礼史）
- (3) 自然共生社会アプローチ：兵庫県豊岡市のケース
- 第7章：環境保全型農業への挑戦：コウノトリ米の開発・普及過程（岩田優子）
- 第8章：トキの野生復帰を実現した制度の生成：佐渡と豊岡の比較（黒川哲志）

第Ⅱ部 分析の基本概念——社会的受容性・協働ガバナンス・持続性

- 第9章：社会的受容性の4要素：その動態的な捉え方（松本礼史・松岡俊二）
- 第10章：技術イノベーションと社会的受容性（勝田正文・師岡慎一・渡邊敏康）
- 第11章：地域的合意形成のための戦略：トランジション・マネジメントの有効性（鈴木政史）
- 第12章：長期的視点からみた経済的受容性（渡邊敏康・松岡俊二）
- 第13章：社会関係資本と地方自治：イノベーションを可能にする制度選択（島田 剛）
- 第14章：協働ガバナンスにおける知の統合：地域という「場」と諸主体の成長（岩田優子）
- 第15章：地方都市の持続性の評価指標：持続性の3本柱と3社会モデル（田中勝也）

あとがき（松岡俊二）

4. 今後の予定

- 5/27（土） 15:00：第3回日生PJ社会的受容性TF
- 6/2（金） 12:00：環境経済・政策学会・企画セッション申込済
- 6月上旬 追加TF（?）
- 6/17（土） 17:00：日生PJ第7回研究会（713）
- 7/28（金） 12:00：環境経済・政策学会企画セッション論文提出済
- 夏休み 第一次ドラフトの執筆
- 9/9（土）-9/10（日） 環境経済・政策学会・企画セッション（高知工科大学@高知市）
- 9月20日(水)第一次ドラフト済
- 9月末 日生PJ・研究期間の終了
- 10・11月 WSの企画確定

2018年

- 2/3（土）午後 WSの開催@早稲田大学
- 春休み 最終原稿の執筆
- 3月31日(土)最終原稿済
- 7月下旬 出版社へ完成原稿渡し
- 9・10月 校正作業
- 12月上旬 出版

